

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2024年11月実績 速報版

10月実績 確報版

(2024年12月20日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m<sup>2</sup>あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカリー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2024年12月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2024年11月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	104,900,947	100.0%	105.7%	104.3%
食品合計	95,474,219	91.0%	106.1%	104.5%
生鮮3部門合計	35,454,182	33.8%	106.1%	104.4%
青果	14,331,749	13.7%	108.2%	106.7%
水産	8,544,602	8.1%	104.4%	102.7%
畜産	12,577,831	12.0%	104.8%	103.0%
惣菜	11,316,725	10.8%	107.4%	105.2%
日配	21,218,732	20.2%	103.6%	102.3%
一般食品	27,484,580	26.2%	107.5%	106.1%
非食品	6,892,709	6.6%	102.2%	101.4%
その他	2,534,060	2.4%	104.2%	104.2%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,877,504	43	104.9%	104.1%
関東地方	38,924,065	73	107.5%	105.3%
中部地方	12,661,072	53	104.3%	103.2%
近畿地方	23,675,981	44	104.8%	103.2%
中国・四国地方	10,573,132	34	105.2%	104.8%
九州・沖縄地方	5,189,193	23	103.4%	102.9%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	530,655	46	100.1%	100.1%
4~10店舗	4,417,193	83	102.8%	101.7%
11~25店舗	9,011,683	51	104.6%	103.6%
26~50店舗	17,649,192	44	104.7%	103.9%
51店舗以上	73,292,224	46	106.4%	104.6%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	102,935,911	
総店舗数 (店舗)	8,402	店舗平均月商 (万円)	12,485	
総売場面積 (㎡)	14,017,065	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2024年12月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2024年10月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	104,982,161	100.0%	102.0%	100.8%
食品合計	96,656,650	92.1%	102.4%	101.1%
生鮮3部門合計	36,359,057	34.6%	101.6%	100.2%
青果	15,323,949	14.6%	102.3%	101.1%
水産	8,690,496	8.3%	101.1%	99.6%
畜産	12,344,612	11.8%	101.1%	99.6%
惣菜	11,834,694	11.3%	104.4%	102.9%
日配	21,588,769	20.6%	100.8%	99.8%
一般食品	26,874,131	25.6%	103.9%	102.7%
非食品	6,009,841	5.7%	96.4%	96.4%
その他	2,315,718	2.2%	103.4%	101.7%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,884,094	43	100.0%	98.9%
関東地方	39,032,458	73	102.6%	101.5%
中部地方	12,842,395	53	101.7%	100.7%
近畿地方	23,344,363	44	102.9%	101.2%
中国・四国地方	10,666,870	34	102.3%	100.8%
九州・沖縄地方	5,211,982	23	100.0%	99.8%

## 保有店舗数別集計

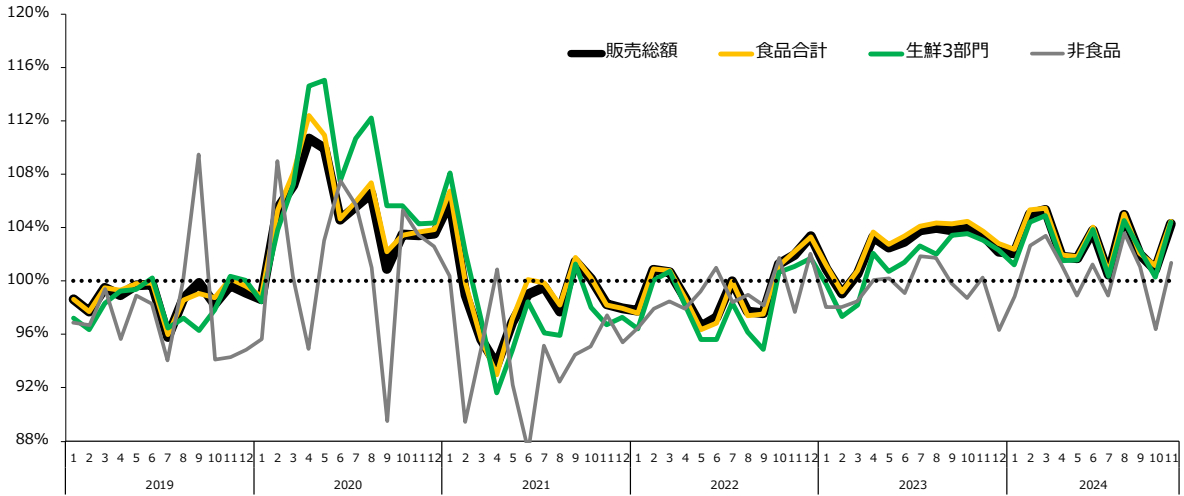
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	542,789	46	96.6%	97.7%
4~10店舗	4,476,332	83	98.6%	98.2%
11~25店舗	8,855,206	50	100.5%	100.7%
26~50店舗	18,066,573	45	100.7%	99.8%
51店舗以上	73,041,262	46	102.8%	101.3%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	103,014,246	
総店舗数 (店舗)	8,385	店舗平均月商 (万円)	12,520	
総売場面積 (㎡)	13,992,212	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5	

※売上高は税抜金額

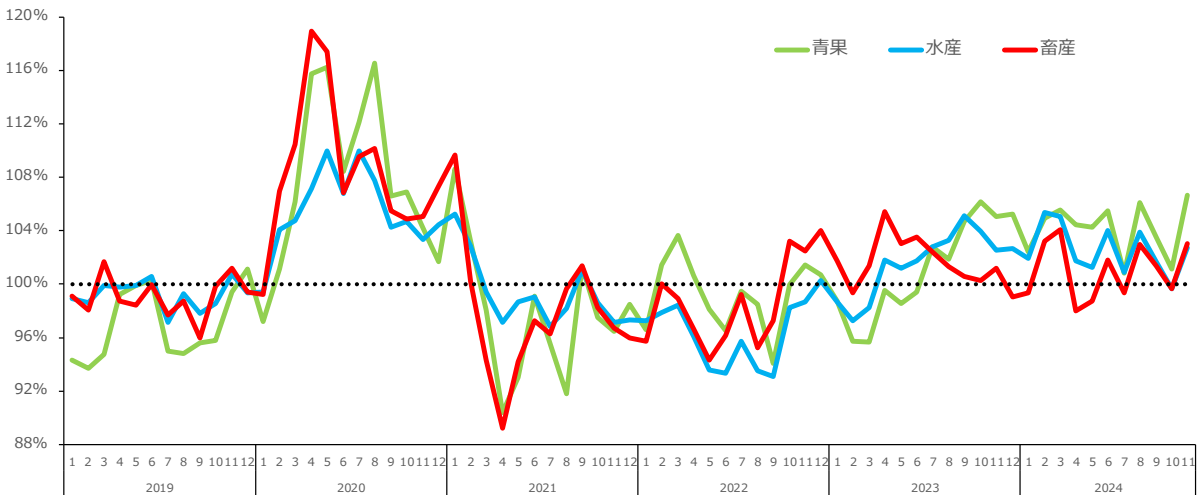
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

# スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

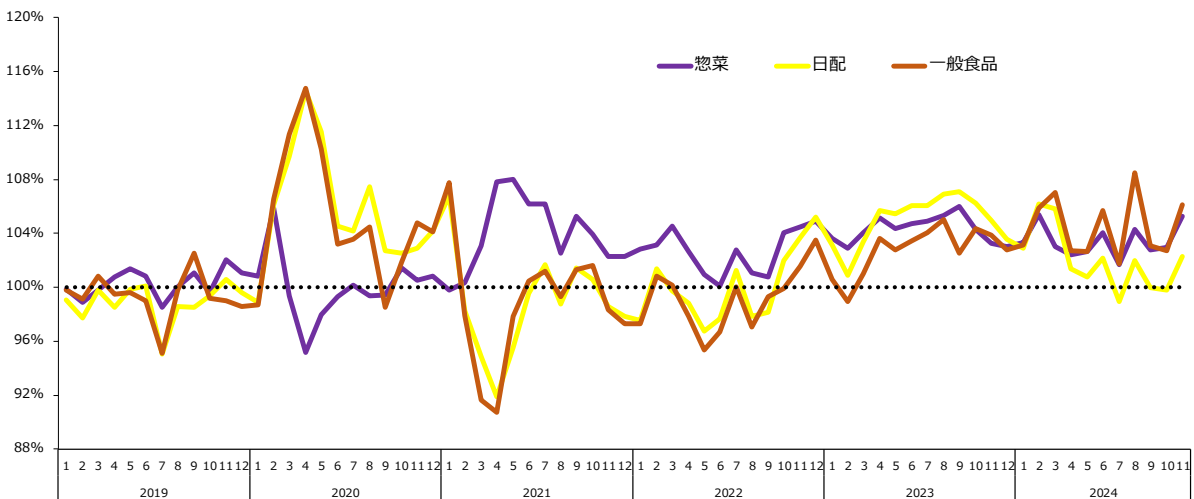
## 総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



## 青果・水産・畜産



## 惣菜・日配・一般食品



※2024年11月実績は速報版

## 2024年11月 エリア別気候状況

### 11月の気温：西日本でかなり高かった

上旬：東日本、西日本では高かった。

中旬：東日本、西日本ではかなり高かった。北日本では高かった。

下旬：北日本では高かった。

2023年11月との比較：上旬は北日本と東日本で前年よりかなり低く、中旬は東日本と西日本で前年よりかなり高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2024年11月 (今年)			2023年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	0.0	1.2	1.0	3.4	0.4	0.6	-3.4	0.8	0.4
太平洋側	0.0	1.2	1.2	3.9	0.3	0.8	-3.9	0.9	0.4
東日本 日本海側	0.9	1.9	0.0	4.6	-0.9	0.5	-3.7	2.8	-0.5
太平洋側	1.1	2.8	0.6	3.7	-1.0	0.9	-2.6	3.8	-0.3
西日本 日本海側	1.9	2.9	-0.1	3.2	-1.7	0.5	-1.3	4.6	-0.6
太平洋側	2.0	2.9	-0.1	2.9	-1.4	0.2	-0.9	4.3	-0.3

#### 平年差

+2°C以上  
+1°C以上

-2°C以上  
-1°C以上

#### 前年差

+2°C以上  
+1°C以上

-2°C以上  
-1°C以上

### 11月の日照時間：北・東日本日本海側と北日本太平洋側で多かった

上旬：北日本太平洋側、東日本日本海側では多かった。北日本日本海側では少なかった。

中旬：北日本日本海側、北日本太平洋側ではかなり多かった。東日本日本海側、西日本日本海側では多かった。東日本太平洋側では少なかった。

下旬：北日本日本海側、北日本太平洋側、東日本太平洋側では多かった。東日本日本海側では少なかった。

2023年11月との比較：中旬は北日本と東日本日本海側でかなり多く、下旬は東日本日本海側でかなり少なかった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2024年11月 (今年)			2023年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	83	154	123	107	98	103	-24	56	20
太平洋側	104	120	112	89	107	104	15	13	8
東日本 日本海側	126	133	73	125	66	129	1	67	-56
太平洋側	95	82	124	113	105	129	-18	-23	-5
西日本 日本海側	100	115	94	127	101	130	-27	14	-36
太平洋側	97	107	107	119	106	133	-22	1	-26

#### 平年差

平年比150%以上  
平年比125%~149%

平年比50%以下  
平年比51%~75%

#### 前年差

+50%以上  
+25~49%

-50%以下  
-25~-49%

### 11月の降水量：東・西日本日本海側でかなり多かった

上旬：東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側ではかなり多かった。北日本日本海側、東日本日本海側では多かった。

中旬：東日本日本海側、西日本日本海側ではかなり少なかった。北日本日本海側、北日本太平洋側、西日本太平洋側では少なかった。

下旬：東日本日本海側ではかなり多かった。北日本日本海側、北日本太平洋側、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

2023年11月との比較：上旬は北日本で少なく東・西日本で多く、中旬は全国的にかなり少なく、下旬は全国的にかなり多くなった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2024年11月 (今年)			2023年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	110	70	123	191	140	134	-81	-70	-11
太平洋側	88	44	128	170	139	50	-82	-95	78
東日本 日本海側	150	38	221	113	161	110	37	-123	111
太平洋側	288	48	127	136	107	8	152	-59	119
西日本 日本海側	536	25	170	103	133	23	433	-108	147
太平洋側	330	38	135	127	98	7	203	-60	128

#### 平年差

平年比150%以上  
平年比125%~149%

平年比50%以下  
平年比51%~75%

#### 前年差

+50%以上  
+25~49%

-50%以下  
-25~-49%

気象庁ホームページ「2024年11月の気候」を参考に事務局作成

# スーパーマーケット景気動向調査

2024年12月調査結果（11月実績）  
（2024年12月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

## 12月調査（11月実績）結果概況

### 現状、見通し判断DIは前月から改善

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+2.6の49.0、見通し判断が前月から+2.4の45.6と、共に前月から改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に前月から上昇し、プラス圏を回復した。客単価DIが二桁水準まで上昇し、来客数DIがマイナス幅を大きく縮めたことが要因となった。引き続き生鮮品仕入原価DI、食品仕入原価DIは二桁プラス圏で推移。販売価格DIは高水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、すべてのカテゴリーDIが前月より大幅に上昇した。高めに推移していた気温が中旬以降に低下傾向となったことで、この時期に主力となる鍋などホットメニュー関連商材の動きがよかった。値上げによる単価上昇に対し、販売数量の減少が抑えられたこともプラス要因となった。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、小幅ながらすべてのDIに改善がみられており、方向感のない動きが続くなかで、堅調な推移となった。（長期傾向はP11参照）

夏以降の高い気温から、中旬以降、秋を通り越して一気に冬を感じる気温まで低下した地域が多く、ようやく季節商材が動きだした。また、このタイミングで生鮮相場にやや落ち着きがみられたことで、訴求が行いやすい環境となったことも、堅調な売上を確保した要因といえるだろう。商品の値上げが続くなか、ガソリン代など新たな値上げの動きもみられ、強まる節約志向に対し年末年始の品揃えをどう展開するか、また売上・利益の確保に向け、季節感やお得感の訴求など、生活の変容にマッチした消費喚起策が重要な役割となっている。

#### 景況感調査

##### 現状判断

###### 景気判断DI

当月：49.0 (+2.6)  
前月：46.4

###### 消費者購買意欲DI

当月：47.3 (+2.1)  
前月：45.2

###### 周辺地域 競合状況DI

当月：45.0 (+0.7)  
前月：44.3

###### 店舗周辺地域 景気判断DI

当月：49.3 (+1.7)  
前月：47.6

##### 見通し判断

###### 景気判断DI

当月：45.6 (+2.4)  
前月：43.2

###### 消費者購買意欲DI

当月：44.4 (+1.0)  
前月：43.4

###### 周辺地域 競合状況DI

当月：43.8 (+1.7)  
前月：42.1

###### 店舗周辺地域 景気判断DI

当月：47.1 (+0.7)  
前月：46.4

#### 経営動向調査 経営状況

##### 売上高DI

当月：11.9 (+14.8)  
前月：-2.9

##### 客単価DI

当月：11.3 (+5.3)  
前月：6.0

##### 来客数DI

当月：-0.7 (+8.1)  
前月：-8.8

##### 収益DI

当月：0.2 (+9.6)  
前月：-9.4

##### 販売価格DI

当月：21.2 (+4.9)  
前月：16.3

##### 生鮮品仕入原価DI

当月：22.7 (+4.7)  
前月：18.0

##### 食品仕入原価DI

当月：22.5 (+2.5)  
前月：20.0

#### カテゴリー動向

##### 青果DI

当月：17.4 (+14.0)  
前月：3.4

##### 水産DI

当月：3.5 (+9.8)  
前月：-6.3

##### 畜産DI

当月：3.2 (+11.2)  
前月：-8.0

##### 惣菜DI

当月：17.0 (+7.1)  
前月：9.9

##### 日配DI

当月：-0.9 (+10.3)  
前月：-11.2

##### 一般食品DI

当月：8.5 (+6.5)  
前月：2.0

##### 非食品DI

当月：-0.5 (+8.5)  
前月：-9.0

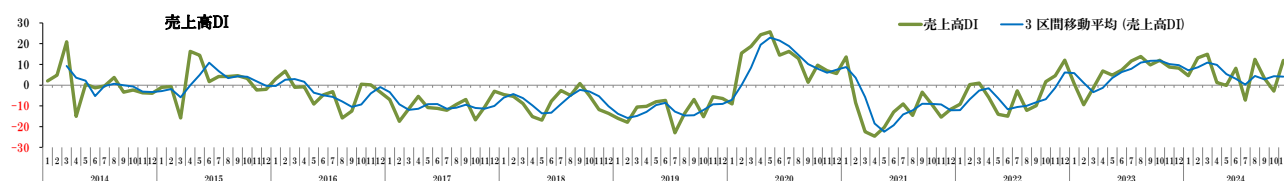
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

# 結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

## 1. 売上高DI

前月から大幅に上昇、二桁プラス圏へ

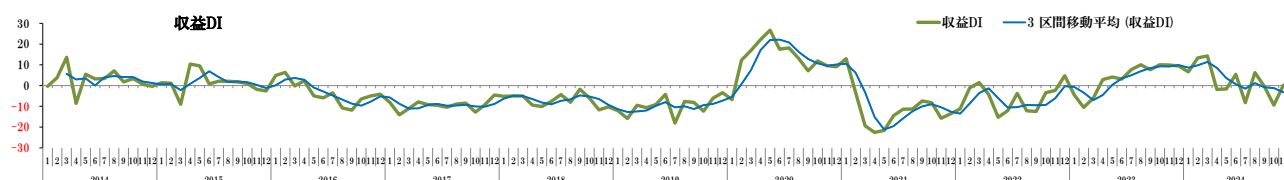
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	6.6	28.3	39.2	21.7	4.2	-2.9
売上高 (当月)	4.1	8.2	32.0	47.6	8.2	11.9



## 2. 収益DI

前月から大きく上昇、プラス圏を回復

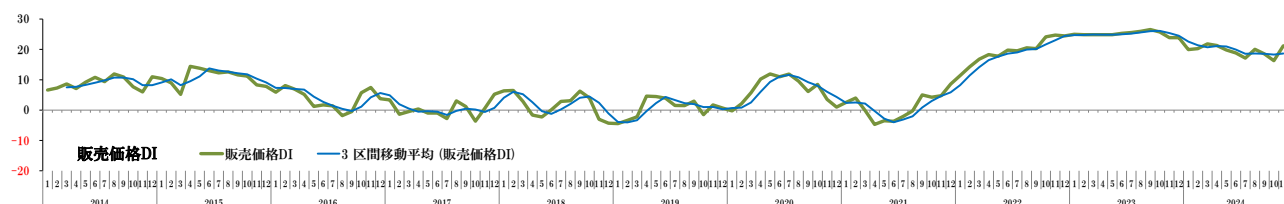
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.1	34.0	40.1	11.1	3.7	-9.4
収益 (当月)	8.3	18.1	41.0	29.9	2.8	0.2



## 3. 販売価格DI

前月から小幅に上昇し、二桁プラス水準を維持

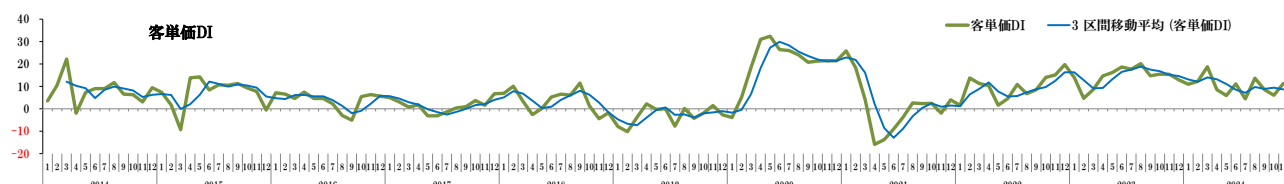
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	3.7	31.1	61.6	3.7	16.3
販売価格 (当月)	0.0	1.4	20.1	70.8	7.6	21.2



## 4. 客単価DI

前月から小幅に上昇し、二桁プラス圏へ

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.8	17.5	39.2	38.0	3.6	6.0
客単価 (当月)	0.7	13.7	30.8	49.3	5.5	11.3

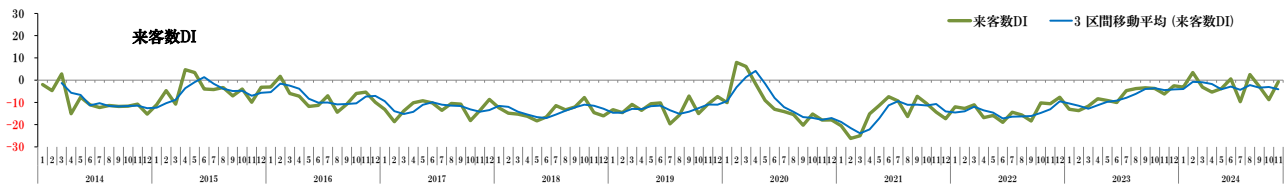




## 5. 来客数 DI

前月から上昇、マイナス幅を縮小

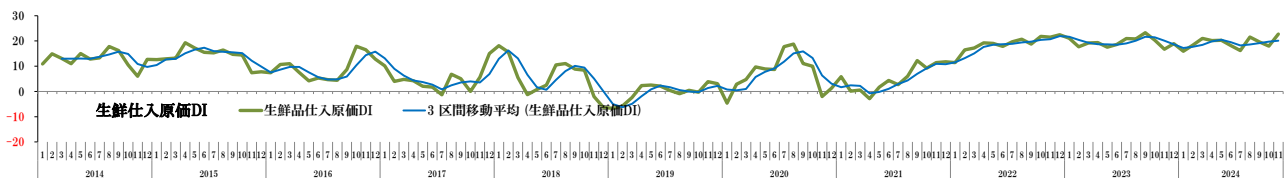
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.5	37.0	37.6	15.2	1.8	-8.8
<b>来客数 (当月)</b>	<b>8.2</b>	<b>20.4</b>	<b>37.4</b>	<b>34.0</b>	<b>0.0</b>	<b>-0.7</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

前月から上昇、二桁プラス水準を維持

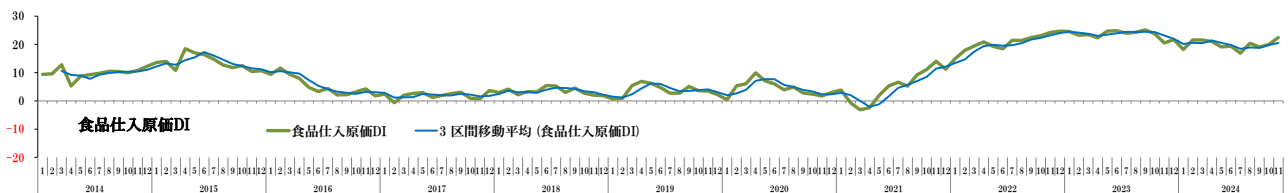
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	5.0	25.0	63.1	6.9	18.0
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>0.7</b>	<b>19.0</b>	<b>66.2</b>	<b>13.4</b>	<b>22.7</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

前月から小幅に上昇、43 か月連続プラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.0	6.3	18.2	64.8	10.7	20.0
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>2.9</b>	<b>17.4</b>	<b>66.7</b>	<b>13.0</b>	<b>22.5</b>

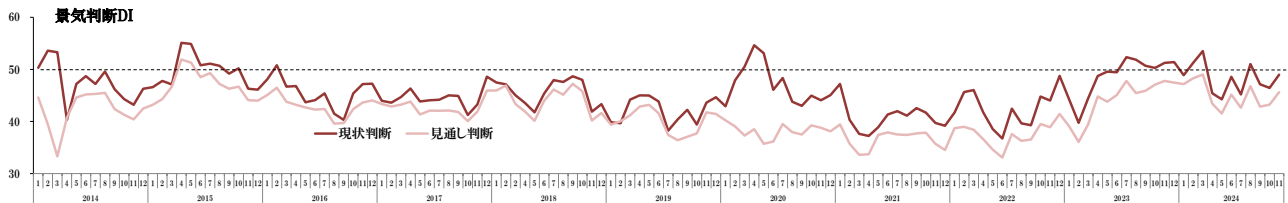


## II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は改善、見通し判断も小幅に改善

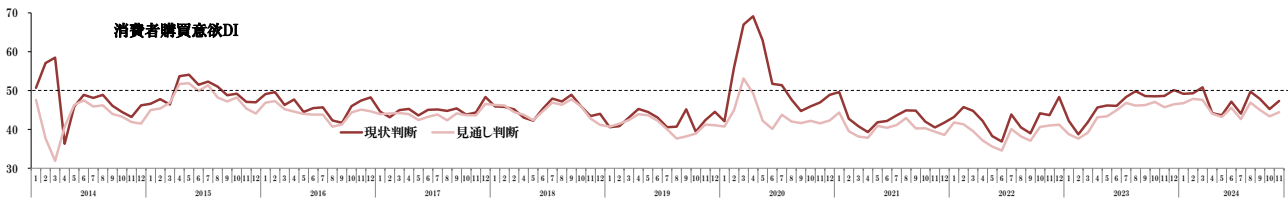
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.8	20.8	68.5	7.7	1.2	46.4
【現状】景況判断 (当月)	2.7	13.4	69.1	14.8	0.0	49.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.2	32.5	59.0	6.6	0.6	43.2
【見通し】景況判断 (当月)	2.7	22.1	65.1	10.1	0.0	45.6



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は改善、見通し判断も小幅に改善

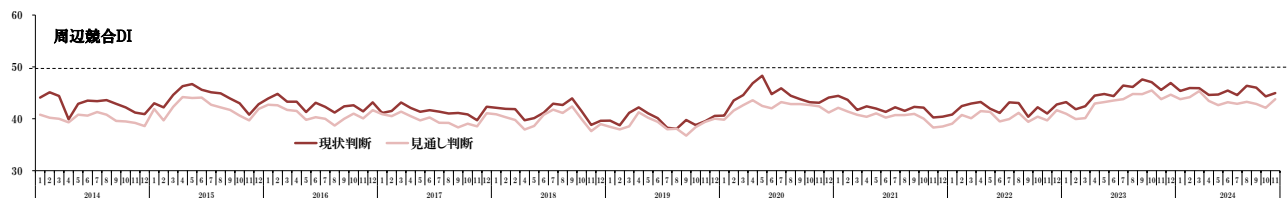
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.8	26.2	61.9	9.5	0.6	45.2
【現状】購買意欲 (当月)	1.3	20.8	65.1	12.8	0.0	47.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.2	31.9	59.6	6.6	0.6	43.4
【見通し】購買意欲 (当月)	2.7	25.7	62.8	8.8	0.0	44.4



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

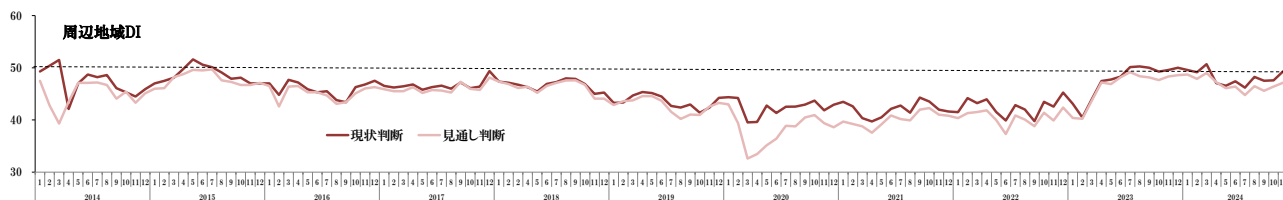
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.6	18.0	76.0	2.4	0.0	44.3
【現状】競合状況 (当月)	2.0	18.8	76.5	2.7	0.0	45.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.3	19.4	70.9	2.4	0.0	42.1
【見通し】競合状況 (当月)	2.0	23.5	71.8	2.7	0.0	43.8



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.6	14.5	78.9	6.0	0.0	47.6
【現状】地域景気(当月)	0.7	9.5	81.8	8.1	0.0	49.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.6	18.0	76.6	4.8	0.0	46.4
【見通し】地域景気(当月)	1.4	14.9	77.7	6.1	0.0	47.1

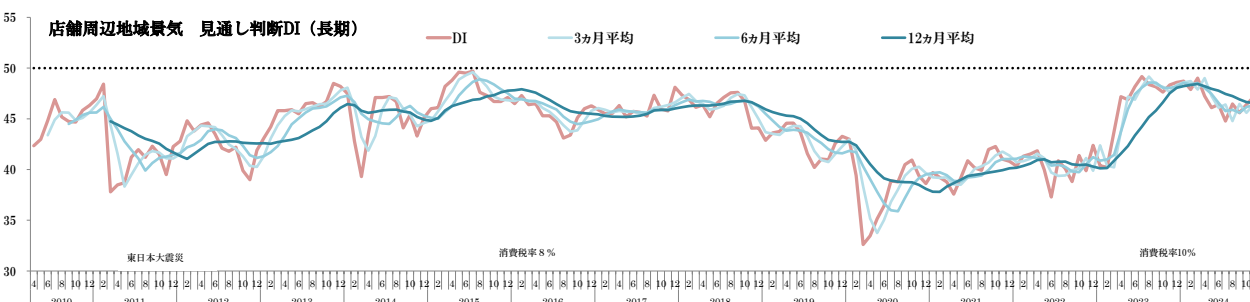
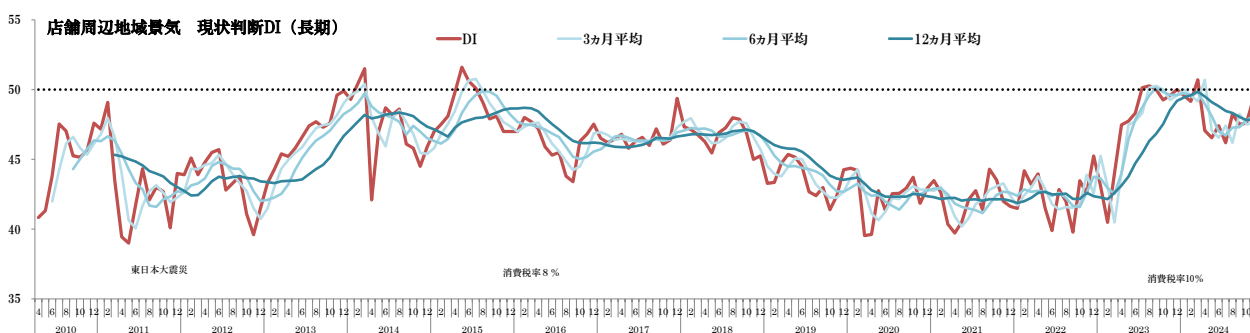


#### ・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向(2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月は現状判断DIが51.5を記録。14年4月の消費税率8%引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、2015年5月には現状判断DIは51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかし、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷。以後方向感の乏しい推移が続いたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下。20年2月に大幅に悪化した、その後持ち直しの動きが続いた。

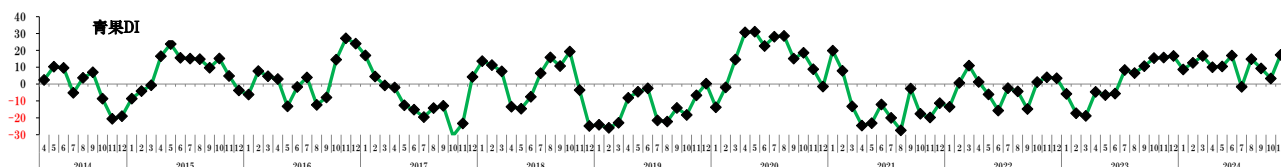
21年は、感染状況により上下に振られる動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化、感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持した。24年4月に一転して大きく悪化した、その後は緩やかに改善が続いている。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：17.4（好調）

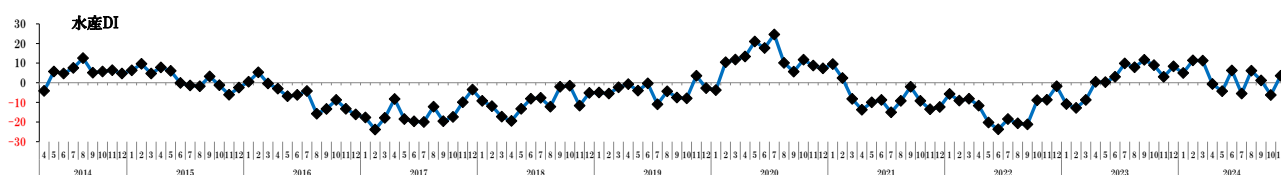
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	6.7	24.5	25.8	34.4	8.6	3.4
<b>青果（当月）</b>	<b>4.3</b>	<b>7.1</b>	<b>23.4</b>	<b>45.4</b>	<b>19.9</b>	<b>17.4</b>



青果相場は高値傾向が続いていたが、葉物野菜などには中旬以降落ち着きもみられた。気温の低下により、ネギや白菜、キノコ類などの鍋関連、土物類、根菜類などホットメニュー関連が好調となった。相場の落ち着いたサラダ関連野菜は好不調の判断がわかれた。果実は、イチゴは出荷が遅れ不調、みかんなどの国産柑橘類は入荷が増加、回復傾向に。輸入果実ではバナナが好調とのコメントが多い。

#### 2. 水産DI：3.5（やや好調）

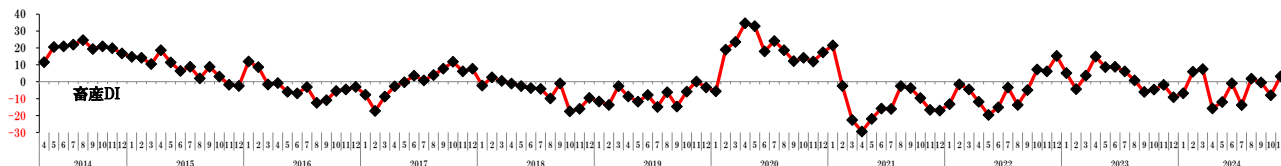
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	10.4	34.8	28.0	23.2	3.7	-6.3
<b>水産（当月）</b>	<b>7.7</b>	<b>19.0</b>	<b>31.7</b>	<b>34.5</b>	<b>7.0</b>	<b>3.5</b>



相場に落ち着きがみられたことで、主力のまぐろやホタテなどが好調に推移した。前年高騰により不振だったエビやカニ類も価格が落ち着き回復傾向。ぶりやアジは豊漁で入荷量が多く好調に推移した店舗が多かった。中旬以降気温の低下とともにブリやタラなど鍋関連商材の動きが良くなった。一方でうなぎは価格高騰もあり不振となった。魚卵や塩干類は価格の高い状況が続いており、動きが鈍いとのコメントが多い。

#### 3. 畜産DI：3.2（やや好調）

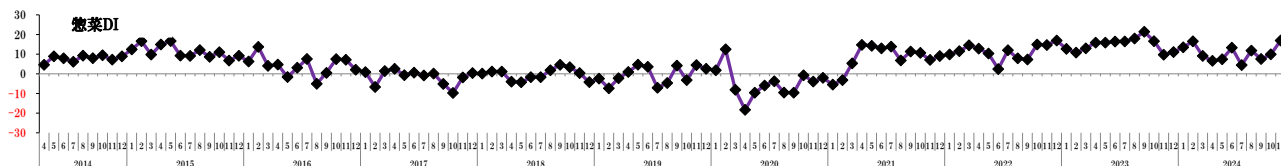
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	11.0	35.6	32.5	16.0	4.9	-8.0
<b>畜産（当月）</b>	<b>9.9</b>	<b>18.3</b>	<b>28.9</b>	<b>35.2</b>	<b>7.7</b>	<b>3.2</b>



牛肉や輸入肉は相場高が継続するなか、豚肉や鶏肉を中心に好調となった。牛肉は切り落としや小間切れなどが販売の中心となっており、不振が続く。中旬以降、気温が低下したことで鍋関連の動きがよく、スライスやしゃぶしゃぶ用の国産豚肉、鶏肉が好調となった。鶏肉には、前年鳥インフルエンザ発生からの反動増もみられたが、今年も影響を懸念する声がかれ始めた。加工肉は高値傾向で不振が続いているとのコメントが多い。

#### 4. 惣菜DI：17.0（好調）

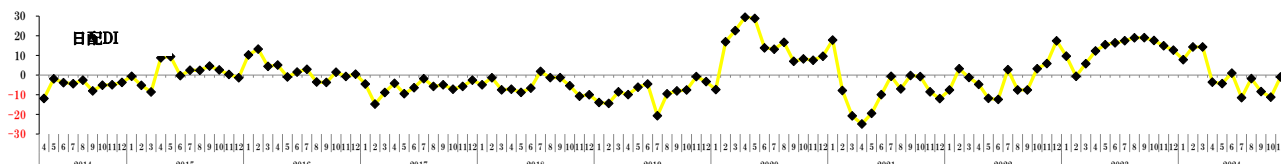
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.5	12.4	35.4	42.2	7.5	9.9
<b>惣菜（当月）</b>	<b>2.1</b>	<b>5.0</b>	<b>30.7</b>	<b>47.1</b>	<b>15.0</b>	<b>17.0</b>



全般的に好調が継続しており、なかでも夕方以降の販売が好調とのコメントが多かった。一方で、気温低下もあり、これまで好調が続いていた揚物類の伸びが鈍化しているとの指摘もみられた。コメの高騰や包材などのコストアップにより値上げに踏み切る店舗もみられ、売上高の増加要因となっている。新商品の開発、出来立てや季節感の演出など、商品力の磨き上げにより販売が好調とのコメントも多くみられた。

#### 5. 日配DI：-0.9（やや不調）

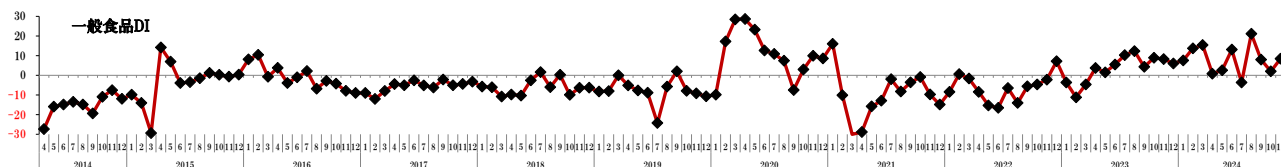
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	11.0	39.3	36.2	10.4	3.1	-11.2
<b>日配（当月）</b>	<b>10.7</b>	<b>18.6</b>	<b>37.1</b>	<b>30.7</b>	<b>2.9</b>	<b>-0.9</b>



DIは大きく回復したものの、全般的に伸び悩み傾向がみられる。中旬以降に気温が低下し、おでんや鍋などホットメニュー関連の豆腐や水物、練り物がようやく動き出し、麺類も好調を持続。値上げがあった牛乳は販売数量減少にはつながらず好調。乳酸菌飲料やパン類は好不調の判断がわかれた。卵は鳥インフルエンザの影響もあり相場高の傾向となっているが、前年品薄となった反動で販売数量が伸びた店舗もみられた。

#### 6. 一般食品：8.5（やや好調）

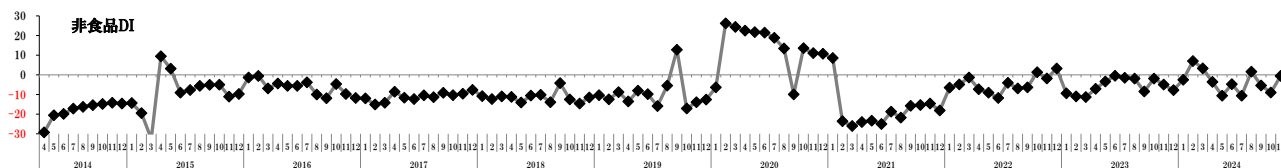
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	3.7	25.8	36.2	27.6	6.7	2.0
<b>一般食品（当月）</b>	<b>5.6</b>	<b>11.3</b>	<b>35.9</b>	<b>38.0</b>	<b>9.2</b>	<b>8.5</b>



中旬以降の気温低下により、鍋つゆやスープ、麺などのホットメニュー関連が好調に推移した。値上げのあったカテゴリーでは一品単価が上昇し売上は確保しているものの、販売数量は伸び悩んだ。菓子はチョコレートの値上げで苦戦、嗜好性の高い品目が伸び悩み傾向。高止まりが続く米類は好不調が分かれ、レンジ米飯が好調持続。飲料や酒類は前半気温が高く、好調に推移。節約志向で特売品や価格訴求品が好調との声が多い。ボージョレ・ヌーボーの勢いが陰り、ブラックフライデーや各種記念日の販促を強化した店舗が多く見られた。

## 7. 非食品DI：-0.5（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.2	33.3	35.9	15.4	3.2	-9.0
非食品（当月）	13.9	15.3	38.7	23.4	8.8	-0.5



中旬以降に気温が低下し、入浴剤や値上げのあったカイロ、ガスボンベなど防寒商材の動きがよくなった。前月まで厳しかった冬物衣料は、ブラックフライデーを行った店舗も多く大幅に回復。また、台所用品やペットフードが好調とのコメントが多い。紙類は好不調がわかれている。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが多くみられた。

### カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20      好調：20～10      やや好調：10～0  
 やや不調：0～-10      不調：-10～-20      かなり不調：-20～

### 2024年12月調査（11月実績）キーワードTOP3

1. 中旬以降の気温低下により冬物好調
2. 値上げによる客単価増
3. 生鮮相場安定

### （参考）2023年12月調査（11月実績）キーワードTOP3

1. 単価上昇と来客数減、買上点数減
2. 気温低下による冬物商材好調
3. 経営コスト上昇の影響

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

11月実績速報版      149社  
 10月実績確報版      168社

### スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)